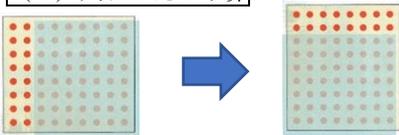
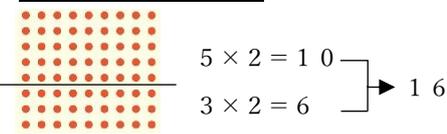


日時：令和6年11月1日（金）
第5校時
場所：2年1組教室
授業者：

- 1 単元名「かけ算九九づくり」
- 2 本時について

(1) 本時のねらい：図や式で「8のだんの九九のつくり方」を考える活動を通して、乗数が1増えると積は8増えることを活用して既習の乗法で8の段の九九の構成を考えることができる。

(2) 本時の展開（5 / 10）

段階	学習活動	研究の具体的方途
<p>つかむ</p> <p>考えをもつ</p> <p>考えを深める</p> <p>考えをたしかにする</p>	<p>1 問題をつかむ（◎共通点・⇔相違点） ◎前時までと同じように九九づくりをする。 8のだんの九九をつくります。</p> <p>問題を読んで、8の段を作ることを確認する。「8たせばとよい」という言葉を引き出す。なぜ8をたすのかを問う。 ・かける数が1増えると、答えは8ずつ増えるから。</p> <p>2 課題づくりをする</p> <p>8のだんの九九の作り方を考えよう。</p> <p>どんな方法があるか確認する。ネーミング資料をみて答える。（フラッシュカードを貼る。）</p> <p>3 自分の考えをもつ</p> <p>(1) とびたしかけ算</p> $\begin{aligned} 8 \times 1 &= 8 \\ 8 \times 2 &= 8 + 8 = 16 \\ 8 \times 3 &= 16 + 8 = 24 \\ 8 \times 4 &= 24 + 8 = 32 \\ 8 \times 5 &= 32 + 8 = 40 \\ 8 \times 6 &= 40 + 8 = 48 \\ 8 \times 7 &= 48 + 8 = 56 \\ 8 \times 8 &= 56 + 8 = 64 \\ 8 \times 9 &= 64 + 8 = 72 \end{aligned}$ <p>(2) 入れかえかけ算</p>  <p>8 × 2 は、2 × 8 と等しい。</p> <p>(3) 分けたしかけ算</p>  <p>5 × 2 = 10 3 × 2 = 6 → 16</p> <p>ペア交流までに、それぞれの考えを板書させる。</p> <p>4 考えを交流する</p> <p>①ペア交流（同じ考え） 自分と同じ考えの子を見つけておく。 ・同じ考えのグループごとで集まり、2、3人のペアで説明を聴き合う。</p> <p>②ペア交流（違う考え） ・違う考えの子とペアになり、新たな方法を知る。</p> <p>③全体交流 ・全体交流で、(1)～(3)の考え方を確かにする。 (1) かける数が1増えると、答えは8ずつ増えるので、前の答えに8をたして考えました。 (2) アレイ図を横向きにすると、8 × 2 は 2 × 8 になるので、答えは16です。 (3) アレイ図に線を引いて、5の段と3の段に分けて考えました。</p> <p>5 まとめをする</p> <p>8のだんの九九も、とびたしかけ算や入れかえかけ算や分けかけ算を使ってつくることができる。</p> <p>6 評価問題をやる</p> <p>・自分がやっていない方法で考える。 ・分けかけ算で分けていないところで分けて考える。</p>	<p>・前時の振り返りを行うことで、かけ算のつくり方を想起させる。</p> <p>【研究内容1-②】 問題解決のための手立ての工夫 ・アレイ図が分解できるようなヒントカード、プリントの作成</p> <p>考えをもつ場面では、自分でかけ算九九づくりの方法を選択できるようにアレイ図、プリントを用意する。アレイ図の丸を一つずつ見ることによってかけ算九九のヒントになるよう、TT形態を最大限活用する。 T1：机列表をもち、どの方法で考えたかチェックをし、キーワードを使って説明することができているか確認し、交流活動につなぐ。 T2：支援が必要な児童をヒントコーナーに集めて、(1)とびたしかけ算の計算の補助をする。</p> <p>【研究内容2-②】 考えを深め伝え合う活動の位置付け ・意図的なペア・グループ・全体交流の位置付け 交流場面では、「私は()番の方法で考えました。」と伝える。「かけられる数」「かける数」「8のだんは8ずつふえる」のキーワードを用いて説明できるように、黒板に位置付けておく。 はじめに、自分の考えが確かなものなのか、同じ考え同士の2、3人ペアの交流を位置付ける。 次に、違う考えの児童の説明を聞き、他の考え方でも説明できることを知る。既習事項の何を使ったか説明できる。</p> <p><評価規準> 既習の乗法を活用して、8の段の九九の構成を考え、説明している。 【思考・判断・表現】</p> <p><プリント> 答えを書き込めるプリントを使って、自分の考えを説明している。 A：さらに既習の乗法を活用して8の段の九九の構成を説明できる B：(1)の視点で考えを説明できる</p>